

**がん患者に安全で有効な抗がん剤を
がん患者の命の重さを問う**

薬害イレッサ総決起集会

2010年11月26日(金) 18:30-20:30

文京区民センター 3A

東京都文京区本郷 4-15-14

入場無料

主催：薬害イレッサ総決起集会実行委員会

薬害イレッサ統一原告団／イレッサ薬害被害者の会
薬害イレッサ弁護団／薬害イレッサ東京支援連絡会

協賛：薬害オンブズパーソン会議

薬害対策弁護士連絡会



お問合せ先：薬害イレッサ東京支援連絡会 URL:<http://yakugairessa.yu-yake.com/> E-mail:shinjo@jyohoku-law.com
〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-1-3 -10F スモン公害センター内 TEL03-3352-3663 FAX03-3352-9476

薬害イレッサ訴訟とは

イレッサは、イギリスに本拠をおくアストラゼネカ社が開発した肺がん治療薬です。「副作用の少ない夢の新薬」として大きく宣伝され世界に先駆けて日本で承認販売されました。ところが、夢の新薬であるはずのイレッサは発売から2年半の間になんと557人もの死者をだしました。さらに、承認後8年がたった今も、日本人に延命効果があるという証明がなされていないにもかかわらず販売が継続され、2010年3月末までに副作用による間質性肺炎で苦しんだ人は2150人、死亡者数は810人になりました。

薬害イレッサ訴訟は、世界で初めて抗がん剤の安全性を問い、アストラゼネカ社日本法人とイレッサの承認をした国を被告として被害の救済とがん治療の改革を求める訴訟です。

「育薬」で810人の生命を奪うのか!

アストラゼネカ社の代理人は法廷で、1年で300人、2年半で550人もの生命を奪ったイレッサについて「育薬」(イクヤク:クスリを使いながら育てる)という考えから仕方がないなどと発言しました。

薬害イレッサ訴訟弁護団より

薬害イレッサは、副作用情報が無視・軽視され十分な安全対策も取られないまま薬を販売したこれまでの薬害の繰り返しであるとともに、夢の新薬などという誇大な宣伝とけじめのない薬事行政が生み出した未来型の薬害ともいえます。企業と国の責任を明らかにして薬害の根絶を目指します。

薬害イレッサ東京支援連絡会事務局長 小池盛明

抗がん剤といえども、これほどの被害を出したのは「イレッサだけ」「日本だけ」です。繰り返される薬害にストップをかけたい。これが私たちの思いです。薬害イレッサ事件の全面解決を!

薬害イレッサ訴訟 原告 近澤昭雄

「夢のような新薬」として販売されたイレッサで、わずか2年5ヵ月の間に557人もの尊い命が奪われました。どうしてこんなに大勢の死者が出たのかと、亡くなった方の遺族は死亡被害の説明を求めました。しかし、「抗がん剤による副作用の死亡は当たり前、諦めろ!」と言われる。私たちは、国と製薬会社に対して「がん患者の命の重さ」を問い提訴して6年もの裁判を戦いこの8月に結審を迎えました。このたび、全面解決に向けた総決起集会を開催いたします。皆様のご参加を宜しくお願いいたします。



抗がん剤等の副作用死亡救済制度の創設を求める署名のお願い

薬害イレッサの解決のためには、抗がん剤による副作用死を製薬メーカーの責任で補償する制度をつくるのが不可欠です(現在の「医薬品副作用救済制度」には抗がん剤と胎児死亡が含まれていない)。

私たちは、抗がん剤の副作用死と医薬品副作用による胎児死亡について救済制度をつくらせるための国会請願署名に取り組んでいます。この秋の国会がヤマ場になります。どうぞ運動の輪を大きく広げて下さい。